

感染症・予防接種レター(第40号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会委員長 加藤達夫

予防接種・感染症委員会

委員長 加藤 達夫 副委員長 岡田 賢司 庵原 俊昭 宇加江 進 古賀 伸子
住友真佐美 多屋 馨子 馬場 宏一 三田村敬子

食中毒と感染症

～保健所からみたノロウイルス感染症～

ある日、保育園で

火曜日、Aちゃんはお昼寝のあと寝覚めがよくありません。ぐずっていました。勢いよく嘔吐しました。2歳児クラスで嘔吐はAちゃんです。今日2人目です。

担当の先生は、吐いたものに新聞紙をかぶせ、クラスのこどもを向かいのへやに移動させ廊下のドアを閉めました。マスク、手袋、ゴミ袋で作ったガウンを着て、Aちゃんを手早く着替えさせ、汚れた衣類をビニール袋に密閉し持ち帰りの荷物にいれます。荷物には消毒方法を書いたメモを挟みます。Aちゃんはお迎えを待つあいだクラスの子たちと別に園長室ですごします。先生は部屋の窓を開けて換気をしながら、用意してあった「消毒セット」を持ち出し慎重に吐いたものをふきとり、周りを広く塩素系消毒剤で消毒しました。

園長先生は担任の先生から報告を受け、出席状況を確認してみました。先週と比べ各クラス欠席者が増えています。先週から1人2人「おなかにくるかぜ」と診断された子もいます。

園長先生は園医の先生に相談しました。園医の先生の診療所では、最近感染性胃腸炎の患者さんが増えています。市の感染症発生動向調査によると、市内全域で感染性胃腸炎が流行しているようです。この季節の胃腸炎の原因のほとんどはノロウイルスです。この園の件もノロウイルス感染を疑い、昨年作ったマニュアルに沿った拡大防止策をとること、保健所に連絡することをアドバイスしました。

園長先生は理事長先生に報告し、職員とマ

ニュアルを見ながら対応を確認しました。

保育園では嘔吐・下痢はよくあることですが、今回は同じ症状の子が短期間に10名出ています。園長先生は保健所と市の保育課に報告しました。

調査の開始

連絡を受けた保健所は、感染症課と食品衛生課が検討会議を開きました。感染症・食中毒の両方の可能性を考え、調査を開始します。

市の保育課は、市内の保育施設に感染性胃腸炎に対する注意を呼びかけました。

園に保健所から保健師と衛生監視員が到着し、調査を開始します。

調査の目的は、①原因の究明、②感染拡大防止、③パニック対策、④再発防止対策です。

①原因究明

調査は、嘔吐・嘔気、下痢、腹痛のある人について行います。

発症者は2歳と3歳児クラスで5人ずつ。症状は全員嘔吐・下痢です。調理担当者を含めて職員の発症者はいません。日曜日の午後から火曜日にかけて発症しています。保護者の協力を得て発症前に食べたものをリストアップしました。10人のうち8人が土曜日の給食を食べていました。家族には発症者はいないようです。

園の見取り図でトイレの位置や、給食室からの導線も確認しました。手洗いや手ふきについても確認します。こどもたちの手ふきはそれぞれのマークがついてわかりやすくしてありま

す。先生たちのトイレの手ふきはペーパータオルです。

クラスの日課を確認しました。ここ2週間園の特別行事はありません。土曜日は人数が少ないので合同保育になり、2,3歳は同じ部屋で過ごしていました。

給食室は清潔に管理され、手洗い設備も整っています。

保健所は、原因究明のため、保護者に患児の検便の協力をお願いすることにしました。

食中毒の疑いもあるため、調理の先生方の便と冷凍保存してあった土曜日の給食とも検査することにしました。

②拡大防止策

園のマニュアルを確認します。

嘔吐物・排泄物の処理は、マスク、ガウン、手袋着用。処理後手袋を取ったあと必ず石けんと流水で手を洗います。食事・調理の前、トイレのあと、おむつ換えのあとには石けんで手を洗います。手を拭くのはペーパータオルです。

吐物で汚れた衣類は、ビニール袋に密閉し、持ち帰って家庭で処理してもらいます。

消毒は塩素系消毒剤を薄めたもので行います。手すり、ドアノブ、蛇口、引き出しの取っ手、おもちゃは定期的に消毒します。

嘔吐下痢のある職員は、お休みするか給食や保育に従事しないことになっています。

先生方は普段から訓練していて、機材の扱いにも慣れていますが、手洗いも洗い残しはありません。

③保護者への情報提供（パニック対策）

園長先生は、マニュアルを利用して保護者宛にお手紙を作りました。園での嘔吐下痢患者の発生状況、園の対応（保健所の調査）、家庭での注意などが分かりやすく書いてあります。症状のある時はお医者さんに行くこと、自宅でゆっくり休ませて欲しいことも伝えます。

④再発防止策

園長先生は理事長先生と相談の上、検査の結果がでるまでは給食室の使用を自粛することにし、代わりのお弁当とおやつを園で用意するこ

とにしました。

調査を終了した保健所職員は、園長先生に、園の対応が適切に行われていることを伝え検便を預かって帰りました。

翌水曜日、検査した患者5名のうち4名の便からノロウイルスGⅡが検出されました。調理の担当者の検便は陰性、土曜日の給食からウイルスは検出されませんでした。水曜日新しく発症したのは2歳児クラス2人でした。

これらの検査及び調査の結果から、保健所はこの件はノロウイルスを原因とした感染性胃腸炎の集団発生で、食中毒ではないと判断しました。

保健所からの園への説明

今回の事例は、先週数人出ていた急性胃腸炎の患者から排泄されたノロウイルスが土曜日ころヒトヒト感染したものと推測されます。食中毒の可能性はないと判断しました。

ノロウイルスは感染したひとの便から最長4週間排泄されます。非常に感染性が高く10個以下のウイルスで感染し発病することがあります。今後もしばらくのあいだ、消毒など拡大防止策を続けてください。新しい患者については毎日報告してください。ノロウイルスの潜伏期間3日がすぎて新しい患者がでないことで、観察期間は終了です。

園では、昨年の集団感染発生時の経験を活かして、平素からの健康観察、マニュアルの作成、職員の研修、機材を整えてきました。発生後の先生方の対応や関連機関との連携も迅速で、感染拡大は早期に防止できました。保健所からそのことを評価されて理事長先生はじめ園のスタッフは、とても満足しました。

感染拡大を防ぐには～ノロウイルス感染症～

毎年寒くなると乳幼児を中心に、ウイルスによる急性胃腸炎が流行します。原因の代表はノロウイルスです。

ノロウイルスは以前生カキなど二枚貝による食中毒の原因として知られていましたが、近年は「おなかのかぜ」と診断されることが多くな

りました。人から人への感染力がきわめて強く、集団発生した場合には、その主な原因が食中毒によるものか、あるいはヒト→ヒト感染によるものか判別困難なことがあります。

国立感染症研究所・感染症情報センターの病原体情報によると、平成18年には9月からノロウイルスによる施設内集団感染、食中毒の報告がふえ、11月をピークに12月まで全国で852件が報告されています。推定感染経路はヒトヒト感染の疑いが545件（66%）食品媒介の疑いが155件（17.9%）でした。診断名は感染性胃腸炎73%食中毒17.4%でした。

平成19年9月から12月までの報告数は92件と、昨年の1割程度となっています。

昨年の経験から、保健所は給食施設の指導監視を強化し、感染症対応研修を流行にさきがけて行いました。施設ではそれぞれの実情に応じたマニュアルをつくり職場で徹底してきています。しかし、今年も百人規模の発症者が出た例や、2次感染で食品を汚染して食中毒をおこした事例がありました。

十分な準備と、現場での迅速な対応、関係機関との連携で感染拡大を最小限に防ぐことが重要です。

感染症の集団発生が疑われたら、ためらわず保健所にご相談ください。

（文責：古賀伸子）